

四方通信



石城山岳会事務局編集

豎破山 (658.3m)

虎捕山 (705m) 塩手山 (282m)

残雪の八ヶ岳 (東天狗岳、西天狗岳、硫黄岳)

川内村「五社山」(597.5m)

5月例会山行 尾瀬「至仏山」2228m

5月例会山行 この時期にしか行けない景鶴山

鳴虫山 (1103.6m)

半月山 (1753.2m)

社山 (1826.7m)

登山教室 第二回登山実技 五十人山

月山 (1984m) スキー登山

男体山 (2486m)

屹兎屋山からニッ箭山へ三森山経由で縦走してみた

矢大臣山 (964m)

五葉山 (1340m)

徳千丈山 (711m)

豎破山 (658.3m)

2022年4月17日(日) 猪狩(由)、佐藤(春)、国井

太刀割石を見に豎破山へ行ってきました。登山口まで2km手前からかなり荒れた林道であったので、舗装道路脇のスペースに車を置いて登り始めた。林道を2km歩いて、豎破山登山口へ着いた。登山口には、水洗トイレが整備してあって、15台程度の車は止められる。

登山口から次々と巨石が出てくる。不動石、烏帽子石、畳石。黒前神社本殿前には、大きな甲石。甲石には、鎖が付いているので、上まで登れる。神社にお参りして、山頂へ。山頂は、展望がないが、展望台が設置してある。山頂を進むと胎内石へ。胎内石から山頂に戻り、神社の前を通り、今度は太刀割石へ向かう。太刀割石は、綺麗に割れているように見える。ここから林道が交差を通り、奈々久良の滝へ。滝は、こんなものかな。帰りは、林道をとおり登山口へ戻る。危険な箇所なし。道を迷うところなし。



[コースタイム]

10:35林道駐車スペース-11:08 豎破山登山口-11:50山頂-12:00胎内石-12:02 山頂
-12:33太刀割石-13:03奈々久良の滝-13:25豎破山登山-14:00林道駐車スペース

(文責：国井)



虎捕山（705m）塩手山（282m）

2022年4月29日(金)

青天目、西(重)、国井、猪狩(由)、佐藤(春)、山中

この日は午後から雨予報です。とりあえず2番目に登る塩手山は天候次第でということにしました。まずは虎捕山です。今年の干支にちなんだ山ですね。飯館村の山津見神社の駐車場から出発です。少し行くと本殿登拝入口の石標があり登山道になります。手水舎を過ぎしばらく行くと岩場があり、梯子を登り奥ノ院になります。ここから先に進み岩場を登ると見晴らしが良い展望エリアがあります。そして尾根道を過ぎると虎捕山山頂に到着しました。早々に下山しました。当初はピストン予定でしたが、物足りなかったのか下山担当リーダーが途中一部に周回ルートを取り入れ下山しました。

[タイム]

山津見神社駐車場 8:45→手水舎 9:00→虎捕山山頂 9:25→山津見神社駐車場 10:25



塩手山は相馬市にあります。虎捕山から車で30分程で登山道入口駐車場に着きます。駐車場から舗装道路を歩いて登山道になります。分岐からは手長コースを登りました。急登を登りきり少し行くと北峰の手長神社があります。尾根を下って登ると南峰の塩手山山頂です。ここで昼食を取りカタクリコース下山しました。カタクリの花を期待していましたが時期が過ぎていて見るできませんでした。残念！また、先日の地震が原因かわかりませんが土石が崩れている所がありました。山行途中で雨に降られることもなく、同期生と一緒に楽しい時を過ごすことができました。

[コースタイム]

登山道入口駐車場 11:00→分岐 11:15→塩手山山頂 11:45
→分岐 12:35→登山道入口駐車場 12:50

(文責：山中)





虎捕山



塩手山



皆が歩いている盛り上がったところを外すと踏み抜く、非常に歩きにくい。樹林帯を過ぎ景色が開けると雪もなく、根石小屋に到着しました。ここからは天空の稜線歩きで、中央アルプス、南アルプス（甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、北岳・・・）がドーンと、これから向かう東天狗岳、西天狗岳もバッチリでした。東天狗岳で南ハケ岳の山々の景色を楽しみ西天狗岳に向かいました。



頂上直下が急斜面に見えたので12本アイゼンを履きましたが、トレースが階段状になっていたため結果としてはチェーンスパイクで充分だったと思います。ここまでかなり時間が押していましたが折角の良い天気、御嶽山、北アルプス、後立山連峰、妙高・火打、浅間山、日光方面の山々から遠くに多分尾瀬方面の山と360°の絶景を堪能しました。下山は箕冠山から直接オーレン小屋へのルートで速攻下山しました。

お楽しみの夕食（桜鍋はかなり甘めの味付けですが、肉はタップリ、天ぷらも美味しかったです。売店で買ったビールの缶もお持ち帰りはコロナでしかたなしか？）を頂き、今日はすごく疲れたので夜空も見ずに就寝しました。

2日目は残念ながら曇空でガスもかかっていたのですが、折角なので硫黄岳まで行きました。赤岩の頭経由で登り、景色も見えず風もあったので硫黄岳の山頂標識のところで終了とし、夏沢峠経由でオーレン小屋へ、置かせてもらった荷物を回収して無事下山しました。

時間も早かったので、行きたかった美濃戸口のJ&Nでランチをしていわきに帰りました。

2日目は残念でしたが、1日目に素晴らしい天気にも恵まれ良い山行になりました。

【1日目】

桜平駐車場(中) 7:14~7:25 登山口~7:58 夏沢鉱泉~9:20 オーレン小屋 9:40~10:40 夏沢峠~12:25 根石岳 12:40~13:25 東天狗 13:35~14:00 西天狗 14:45~15:35 根石岳~16:00 箕冠山~16:35 オーレン小屋(泊)

【2日目】

7:05~8:15 赤岩の頭~8:45 硫黄岳~9:30 夏沢峠~9:50 オーレン小屋 10:40~11:43 桜平駐車場(距離:16km 上り:1,610m)

(文責:小林)

川内村「五社山」(597.5m)

2022年5月1日(日) 太、山縣、菊地、西

「新うつくしま百名山」川内村の五社山を周回。宮渡登山口から登って山頂と三角点峰に至り、早渡登山口に下って村内を散策しながら舗装道に戻った。

旧川内中学校(令和3年度に小学校と統合、上川内字沼畑に川内小中学園が開校した)前の駐車場に駐車。登山口にトイレはない。道の突き当り奥の民家裏に、文字の消えかかった「五社八幡神社参道入口」案内板がある。民家敷地に沿って進み、素朴な木製の鳥居をくぐって樹林の中を進む。途中の大岩に小さな石祠があり、そこを過ぎると道は沢から尾根へ。ツツジが少し咲いていたが、まだ少し早い。早渡登山口からの道が合流すると、すぐに五社八幡神社奥社。石祠が巨石の前に鎮座し、神聖な雰囲気漂う。神社の右をロープを頼りに岩を登ると山頂。岩峰からは足元に川内村の田園風景。周囲は万太郎、大滝根、尖盛、桧、糠馬喰、大鷹鳥谷、弥宣ノ鉾などの山々がぐるり。山頂でひと休みの後、三角点峰へ向かう。三角点峰は、四等三角点(点名「五社山」597.5m)標石はあるが、樹木で展望はない。



下山は、早渡登山口に下る。分岐で尾根から沢地形を下りていく。途中いたるところに樹木の案内板が掛けられ、道もよく整備されている。小白井川に出会うと、仮設橋で渡り、途中で直売所やベーカリーに立ち寄りながら、舗装道を歩いて駐車場所に戻る。下山後は、川内村いわなの里「幻魚亭」で、「いわなづくし御膳」を皆で食し、「かわうちの湯」で入浴。

(文責:太)

[コースタイム]

10:40 川内小学校前駐車場→10:45 宮渡登山口→11:20 分岐→11:30 五社山山頂→11:55 三角点峰→12:10 分岐→12:30 早渡登山口→13:15 川内小学校前駐車場



5月例会山行 尾瀬「至仏山」2228m

2022年5月3日(火)～5日(木)

下山田、秋葉、西(由)、小林夫妻、根本



当初の出発時間を繰り上げ、AM4:00 湯本かげつ斎苑前を出発。金精峠を避け沼田ICより戸倉を目指す。今日明日の宿泊の尾瀬ロッジから戸倉での無料駐車場を頂いている。一般の駐車場より500m上に広い駐車場があった。そこから鳩待峠までは、「バスタ同じくタクシーも片道千円でOK(相乗り)」の案内もいただいていた。鳩待峠は雪景色で覆われていた。



スキー隊2名、4名はシューとワカンを背負いツボ足で出発。5人は早い、ダラダラの登りは辛い。途中からスキーやボーダーが軽やかに滑ってくる。思わず彼らの後を追いつ山の鼻に降りているかな?と思ったがみんなに「頑張れ」と励まされ何とか山頂に到着。ガスっていたが燧岳や新潟、上州方面、明日上る予定の景鶴山が目飛び込んできた。



遅い昼食をとり下山にとりかかる。雪は降った割には溶けている。

{だるまさんが転んだ!!}

これから始まる悲惨な下山をまったく予期せない地獄がわが身に降りかかってきた。

シールを外し、サー登りの遅れを挽回と滑り出したが4ターンのち転倒。苦笑いをしながら立ち上がり再度滑り出したが転倒につく転倒、まさに、だるまさんが転んだ!状態だ!.....



転んでは小林さんご夫婦に助けられた。拳句の果て、奥さんにザックを持ってもらって背負わされた。小林さんは我がザックも背負っていくという!さすがにザックまで持ってもらうには情けない。抜いたスキー板を持ってもらう羽目に。情けねー。小屋の夕食前によく到着、ビールで生き返る←これも情けねー!

(文責:下山田)



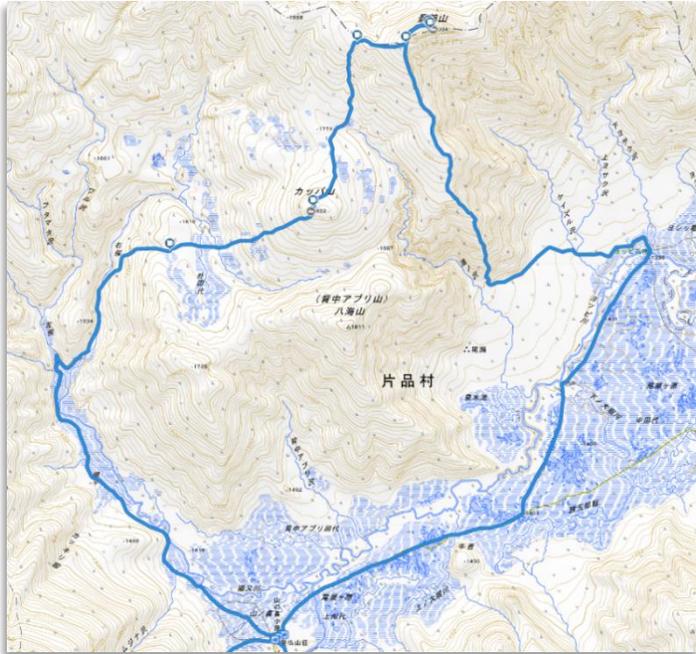
[コースタイム]

鳩待峠 8:40→13:00 至仏山頂 13:30→16:30 山の鼻(尾瀬ロッジ)

5月例会山行 この時期にしか行けない景鶴山

2022年5月4日（水・祝）

秋葉、下山田、根本、西(由)、小林2



5月例会山行2日目。今日は今回のメイン残雪のこの時期限定の景鶴山をカッパ山経由で登ります。てんくらで一昨日見た予報と異なり、快晴で風もあまりありません。

尾瀬ロッジで美味しい朝食を頂き元気注入後、準備をしてスタートしました。まずは尾瀬ヶ原を渡りダケカンバの林の中を猫俣川沿いに進みました。柳平を少し過ぎた地点で下山田さんとお別れし、右俣と左俣に分かれるあたりで渡渉点を探しました。幸い1カ所スノーブリッジがあり、落ちないか少しドキドキしながら無事徒渉できまし



た。右俣沿いを進み、少し急な斜面を登り平らな湿原(外田代)を進みます。さすがマイナールートで足跡は一人だけ。甲高さんの足跡かなと話しながら進みましたが、やはり甲高さんだったようです。カッパ山に向けては、また急な斜面で、標高差100mほど登ると平らな山頂に到着しました。確かに平な山頂でした。ここで少し休憩後、一旦下って景鶴山の尾根へ取り付きました。ようやく尾根筋かと思いましたが、まだ支尾根で、さらに登り、ようやく景鶴山への尾根筋に到着しました。さらに進んで、ようやく景鶴山直下、ケイツル沢の上部の開けた地点に到着し、見えていた山頂部の岩稜が目前に迫っています。どこから登るんだろうかと思っていると、北側(左)から巻いて登るので、ここにザックをデポして出発しました。

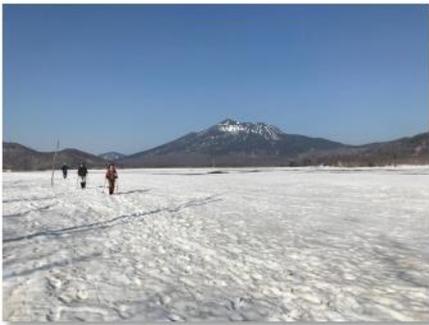


樹林帯の中をトラバースし、頂上への急斜面を登りました。頂上直下はシャクナゲの樹林帯で4-5mだとは思

いますが、倒木の上を越えたり、シャクナゲの枝をもぐったりし頂上に到着しました。最高点はもう少し東のようで、一般ルートで登頂する地点とも異なるようでしたが、今日はここが私たちの頂上です。残念ながらこの地点に山頂標識はなく、5人で一杯なので少し景色を楽しんだ後下山しました。下りの急斜面も結構スリルがありましたが、ピッケルを持っていたのが心強かったです。



ザックをデポした地点に戻り、尾瀬ヶ原や燧岳の景色を眺めながら昼食をとりました。今日は秋葉さんからブランデー梅酒を雪のロックで頂きました（昨日はホットワイン）。雪山で飲むお酒は最高です、ごちそうさまでした。さて、昼食後は下山です。尾瀬ヶ原も見えているし、そこまで下って後は尾瀬ヶ原を歩いて宿まで楽勝と思っていましたが、ここからが本日の核心だったかも知れません。最初は広い尾根の下山で快適に下りましたが、下に行くほど傾斜が急に、また雪の着き方も薄くなり難易度が増してなんとか下へたどり着きました。ここからはほぼ平坦な歩きですが、ヨッピー橋や東電下の大堀橋などのアトラクション（橋の板がまだ設置されていないので杵組みの上を渡ります）をこなし、広大な雪の尾瀬ヶ原を今日は貸切で楽しいと自分に言い聞かせながら歩きました（木道部分は要注意で木道の間を2回踏み抜きましたが）。尾瀬ロッジまでがなんと遠かったことか、ガッツリ疲れしました。



帰りを今か今かと待ち受けていた下山田さんの出迎えを受け、無事尾瀬ロッジに到着しました。

最終日は、名残惜しくはありませんが、のんびり歩いて尾瀬ヶ原を後に鳩待峠へ向かいました。

至仏山や尾瀬ヶ原も初めてでしたが、この時期にしか登れない景鶴山を一般に登らないルートから登ることができ貴重な経験をさせていただきました。



[コースタイム]

尾瀬ロッジ 7:17～猫俣川渡渉点 8:40～外田代 9:40～10:30 カッパ山～12:30 景鶴山～13:00
ケイズル沢上部展望箇地点(昼食) 13:35～14:40 尾根終了点～15:20 ヨッピー橋～16:00 東電下の大堀橋～16:20 牛頸～17:00 尾瀬ロッジ （距離：約 16km 上り：約 750m）

（文責：小林）



鳴虫山（1103.6m）

2022年5月4日（水） 太

日光市の憾満ヶ淵、含満公園の駐車場を起点に、時計回り鳴虫山を周回。

含満公園の駐車場（公衆トイレあり）で仮眠した後、神橋など市街地の旧跡を散策しながら登山口に向かったが、道迷いなどもあり、登山口についたのが、ほぼ午前8時。出遅れ感のあるスタート。

神ノ主山（842m）まで杉の多い樹林の尾根道。山頂にベンチが置かれていたので、ひと休み。展望はあまりないが女峰山が少し見える。立っている山名板の表記は「神主山」だ。

鳴虫山までは、同様に尾根道だが、登山道を横切る木の根が多くなる。話には聞いていたが、歩きにくい。幸い晴天で濡れておらず、転倒などせず順調に登り、山頂に至る。山名板と二等三角点（点名「鳴虫山」1103.60m）標石がある。若芽の梢の向こうに女峰山と赤薙山を見ながら、軽い食事してひと休み。端のほうへ進むと日光男体山も見えた。

合峰（1084m）を目指して、パイプ階段を下りると、細い尾根で、岩が多くなる。ヤシオツツジはまだあまり咲いていなかった。合峰には山名板のほか石祠がある。なお、銭澤不動尊に下りるサブルートは閉鎖されていた。さらに下ると、独標（925m）付近からは針葉樹が多くなり、斜面も道も急になる。林道を2、3度横切り、発電所の脇に出ると、登山道は終わりである。

日光宇都宮道道路の下をくぐって、道標に従って憾満ヶ淵方向、大谷川へ下る。「並び地蔵」の前を通過して川沿いに進むと憾満ヶ淵、含満公園に戻る。

（文責：太）

[コースタイム]

(6:35 含満公園駐車場→市街地散策・道迷い→)7:55 登山口→8:40 神ノ主山→9:55 鳴虫山→10:40 合峰→11:15 独標→11:50 登山口→12:05 憾満ヶ淵→12:10 含満公園駐車場



半月山（1753.2m）

2022年5月4日（水） 太

鳴虫山を登って時間が余ったので、中禅寺湖スカイラインを終点（半月山駐車場）までドライブし、せっかくなので半月山の山頂だけ踏んできた。《社山から見た半月山と半月山駐車場↓》



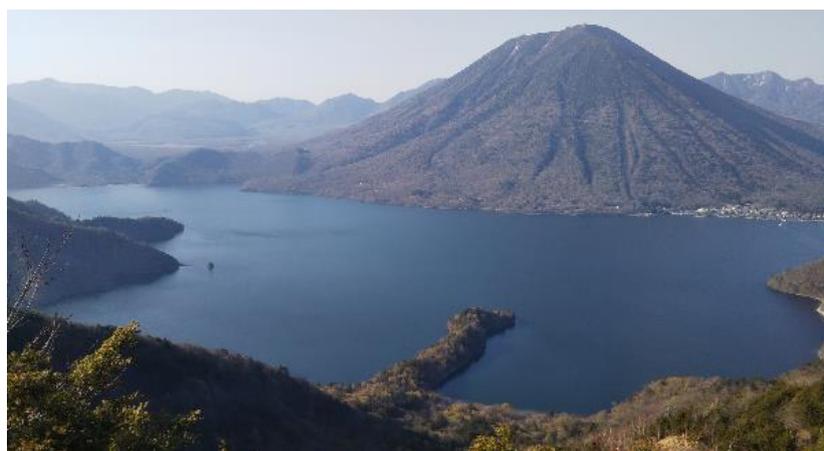
中禅寺湖スカイラインには、茶ノ木平展望所、中禅寺湖展望台、半月山展望台などの展望箇所があるが、中禅寺湖と日光男体山を望むなら、デッキが設けられた半月山展望台が良いだろう。中禅寺湖ほぼ全体、湖上を男体山に向かって伸びる八丁出島が目の前で、そのほかデッキ案内板の山だけでも、20近くの望むことができる。駐車場から往復1時間足らずで気軽に絶景を楽しむことができるのは貴重だ。（さすがにワンピースのお嬢さんが彼氏に連れられて登ってきたのは驚いたが、）

なお、山頂は、デッキから尾根を100mほど進んだ場所にあるが、展望はなく、山名標柱と三等三角点（点名「半月丸」1753.22m）標石、遊歩道案内板があるだけである。

（文責：太）

[コースタイム]

15:45 半月山駐車場→16:05 展望デッキ→16:10 半月山山頂→16:25 展望デッキ
→16:45 半月山駐車場



社山 (1826.7m)

2022年5月5日(木) 太



中禅寺湖畔で前泊(仮眠)し、南岸の遊歩道を通って阿世瀧登山口から登り、社山を往復。

歌ヶ浜駐車場で目を覚ますと、公衆トイレに近い場所は満車に近かった。釣り人がほとんどだが、登山者もちらほら。支度を整え、さっそく行動。湖の南岸には、立木観音や旧大使館記念公園などの観光名所があるが、公開時間には早く、湖畔を阿世瀧登山口に向かう。

登山口から樹林の中を阿世瀧峠(1417m)まで登ると、後は見晴らしのよい尾根で、ひたすら頂上を目指す。峠の少し上、道が崩落した先で中禅寺湖、男体山を眺めながら朝食を取る。足尾銅山の煙害のせいだろうが、背の高い樹木はほとんどなく、登山道は芝のようになった笹の斜面の直登に近い。コース。その笹も残雪期のアイゼン登攀のせいか根が断ち切れ、石にはひっかき傷が多数ついている。1540m付近に雨量観測所があり、咲いていたヤシオツツジ越しに雪をいただく日光白根山が望めた。社山の山頂には、三等三角点(点名「社山」1826.71m)標石のほか、山名板がある。展望は山名板越しに中禅寺湖と男体山が少し。見晴らしが良いのは山頂の少し先で、半月山、夕日岳、足尾銅山街、備前楯山、孤高のブナ・中倉山、庚申山、鋸山、皇海山、黒檜山、錫ヶ岳、日光白根山など大展望。下山は、来た道をそのままだが、旧大使館記念公園など散策しながら駐車場に戻った。

(文責:太)

[コースタイム]

6:45 歌ヶ浜駐車場→7:30 八丁出島→7:50 阿世瀧登山口→8:15 阿世瀧峠→9:50 社山山頂→11:00 阿世瀧峠→11:15 阿世瀧登山口→11:35 阿世瀧登山口→12:15 歌ヶ浜駐車場



右手前から黒檜山、孤高のブナ・中岳、鋸山と皇海山



登山教室 第二回登山実技 五十人山

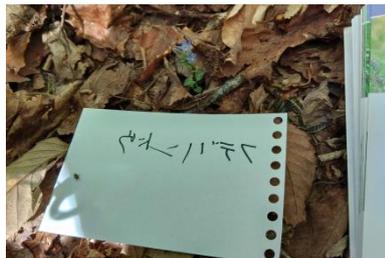
2022年5月8日(土)

登山教室受講生



五十人山登山。風が冷たいと感じるものの天候に恵まれた登山でした。

初夏に咲く小さな山野草、カタクリが自生している場など知ることができました。



教室生だけでなく、ベテランの方々のアドバイスをいただいたり、「お花摘み」や「キジうち」などの山用語も覚ええました。

山頂での景色は格別で、遠方の山々に雪が残っている光景にとっても感動するとともに、「ああゆう山に登ってみたい。」という欲も出てしまいました。



下山後は、血を歩く感覚から、アスファルトを歩く感覚になれるまでやや時間が必要でした。



山に登るだけでなく、汗を流すための入浴施設や、直売所などのお楽しみ立ち寄りもあり、たくさん収穫ありの登山実技でした。



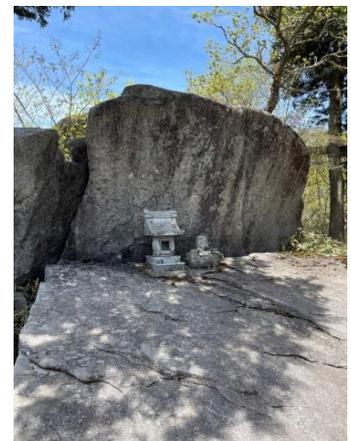
とても特盛の登山教室へ入門出来て良かったです。運転の皆様ありがとうございます。



【反省】

車中で眠ってしまうのは毎度のことで、すみません。車窓も楽しむようがんばります。

(文責：芳賀(恵))



月山（1984m）スキー登山

2022年5月9日(月)・10(火)

下山田、秋葉、栗崎(透)、山中、野木

いわき三和 IC から約 3 時間半で月山スキー場駐車場に到着しました。昨年はスキー場駐車場に到着すると、ものすごい強風が吹いていて登山を断念しましたが、今回は晴れていて風もほとんど吹いておらず、絶好の登山日和になりました。

まずは駐車場からリフト乗り場まで傾斜の緩やかな坂道を登りますが、板をかついでの登りはウォーミングアップとしては十分過ぎました。リフトに乗って約 1 km 移動し、標高約 1500m まで来ました。

ここからスキー板にシールを付けて登ります。姥ヶ岳中腹をトラバースし、緩やかな登りになり、尾根を登り、山頂下まで来るとは雪が無くなりました。ここからはスキー板を背負って登ります。初めてスキー板を背負いましたが、スキーが加わったリックの重さはハンパなかったです。またスキー靴を履いての岩場の歩きもストレスでした。ただこの日は天気が良く、朝日岳や鳥海山、庄内平野と日本海などの眺望が楽しめたので報われました。山頂からはスキーを履いて滑走です。いつものバックカントリーと違って樹木などの障害物はありません。重い雪質でしたが、気持ちよく滑ることが出来ました。あっという間に清川行人小屋に到着した感じです。本日の宿泊小屋です。この小屋には寝具、鍋、食器、水場、ストーブ、薪 等が備えられていて、飲食物を用意するだけで泊られます。すごいです！早速、本日の反省会？が始まりました。夕食はキムチうどんです。

[タイム]

月山駐車場 8:50 → リフト乗り場 9:30 → リフト降り場 9:45 → 月山山頂 13:30 → 清川行人小屋 14:40



2 日目も朝から天気が良く小屋からは遠くに磐梯山や吾妻連峰が望めました。今日は昨日の逆コースです。気温も暖かく風が無かったので登り始めはTシャツで大丈夫でした。昨日滑り降りたところを登りました。山頂に到着するとまたスキー板を背負います。昨日の登りと違って板を背負っての岩場の下りはスキー靴が滑りそうで怖かったです。ようやく雪がある所まで降りてまたスキー板を装着し滑走するのですが、リフト降り場までは傾斜が無く滑走でなくトラバースなのでいまいちでした。リフト降り場からはゲレンデを滑り月山駐車場に到着しました。

2 日間天候に恵まれ、スキーが楽しめ、かつ小屋泊も楽しめ、何よりも眺望が素晴らしかったので申し分ない山行でした！

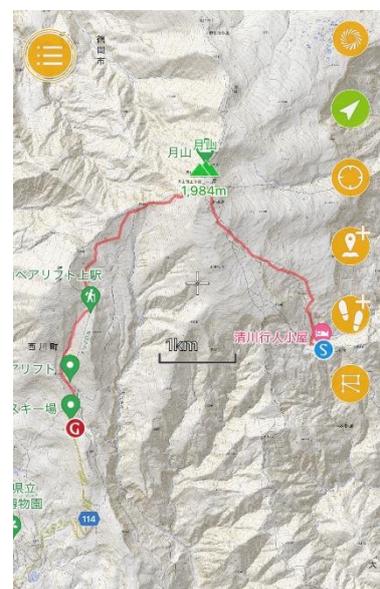
[タイム]

清川行人小屋 7:00→月山山頂 10:15→リフト降り場 12:15→月山駐車場 12:55

(文責：山中)



1日目



2日目

男体山（2486m）

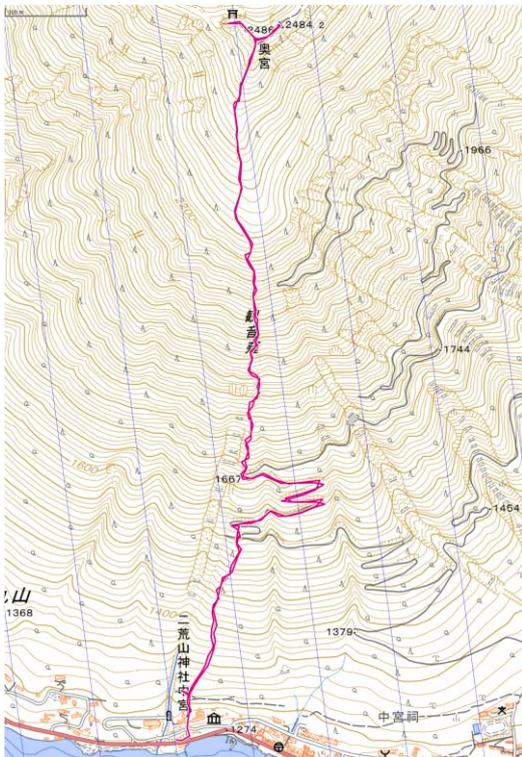
2022年5月15日（日）

青天目、西(重)、猪狩(由)、佐藤(春)、国井

前から行って見たかった日光男体山へ行ってきました。勿来駐車場に午前5時に集合して高速道路、いろは坂を通り登山口の日光二荒山神社中宮祠に着きました。登拝門をくぐり、受付（遙拝所）にて登山届と入山料（一人1,000円）を支払い、お札を頂いて登山開始です。ちなみにトイレはここだけです。

登山口近くで白根菜と日本猿に見送りされながら登ります。1合目から急登、真直ぐに登っていきます。息が荒くなってきます。3合目で工事用道路に出て一休み、他の登山者もここで一休みします。3合目から4合目は、工事用道路を歩きます。4合目鳥居から再び登山道を登ります。4合目から6合目までは、急登ですが、九十九折の土の道を歩きます。6合目からは、岩がごろごろした道を真直ぐにひたすら登ります。8号目滝尾神社で足がつりそうなる人もいましたが、薬を飲みながらなんとか登ります。見返すと雲が出で景色が見えません。直ぐ近くの中善寺湖も見えません。雪も多少残っています。しかし、9合目あたりから天気が良くなりました。晴れ男がいるせいかな。頂上到着、中禅寺湖も日光白根山などの雪山もきれいに望めました。苦労して登ってきたかがありました。記念撮影をし、お昼をとって下山です。

下山も急なので思うように進みません。8合目から7合目までがすごくながく感じました。何とか怪我無く無事に戻ってくることができました。皆さんありがとうございました。



【コースタイム】

8:15二荒山神社登山口-9:00 三合目-9:30 四合目-10:30 七合目-11:00八合目滝尾神社-12:00
山頂13:00-13:30八合目滝尾神社-13:50七合目-14:45四合目-15:00三合目-15:30登山口

（文責：国井）

屹兔屋山からニッ箭山へ三森山経由で縦走してみた

2022年5月15日 小林



七峰縦走コースがニッ石山の風力発電工事のため数年入山できないとのこと。秋葉さんから代替えのコース案として聞いた屹兔屋山からニッ箭山のコースを歩いて見ました。

ニッ箭山登山口から菜萁平登山口まで国道399号線を歩くのが嫌だなと思っていましたが、肌寒い中歩きだすと準備運動には良かったかもしれません。

菜萁平から屹兔屋山へは、杉の伐採がされているところでルートの間違ってしまい、急斜面の登りと少しやぶ漕ぎして登山道に復帰しました。ギンリョウソウがたくさんありました。

屹兔屋山から三森山へは一部今回初めて歩いたルートがありましたが、千軒平からの林道経由でモトクロスのバイクが入るらしく、特に少

し急な所は轍が掘れ歩きにくい箇所がありました。三森山で休憩し太平洋の景色を楽しんだ後猫鳴山経由でニッ箭山に向かいましたが、この間がもっとも距離も長く、非常に遠く感じました。ここまでかなり歩いているのでニッ箭山への登り返しも厳しかったです。ニッ箭山を通過すると何回も歩いているルートなので余裕も生まれ、月山でゆっくり休憩し、桐ヶ丘神社でおいしい水を頂いて無事ニッ箭山駐車場に到着しました。

七峰縦走のチャレンジコースより距離で約2km、累積投稿で200m少ないですが、充分歩きごたえのあるコースで疲れました。途中でエスケープできる箇所が少ないのが少し課題かもしれません。

【コースタイム】自分なりにがんばって歩いた結果です。

ニッ箭山駐車場 7:17～399号線～7:59 菜萁平登山口 8:07～8:40 屹兔屋山猫鳴山分岐～9:36 屹兔屋山 9:45～10:28 三森山分岐～11:38 三森山 12:02～13:45 猫鳴山 13:50～15:13 ニッ箭山 15:20～15:32 月山 15:45～16:13 桐ヶ丘神社 16:24～16:44 ニッ箭山駐車場

(距離：25.7km 上り：1,722m)

(文責：小林)



矢大臣山（964m）

2022年5月15日

樫村夫妻、太、菅野、山縣、菊地、西(由)

ツツジが見頃だろうか、湯沢登山口から矢大臣山の山頂を往復。

一番奥の駐車場まで車を乗り入れる。案内板が臨時駐車場となっており、砂利も敷かれず、タイヤが埋まりやすい。状態の良い場所には、既に十数台が駐車していた。

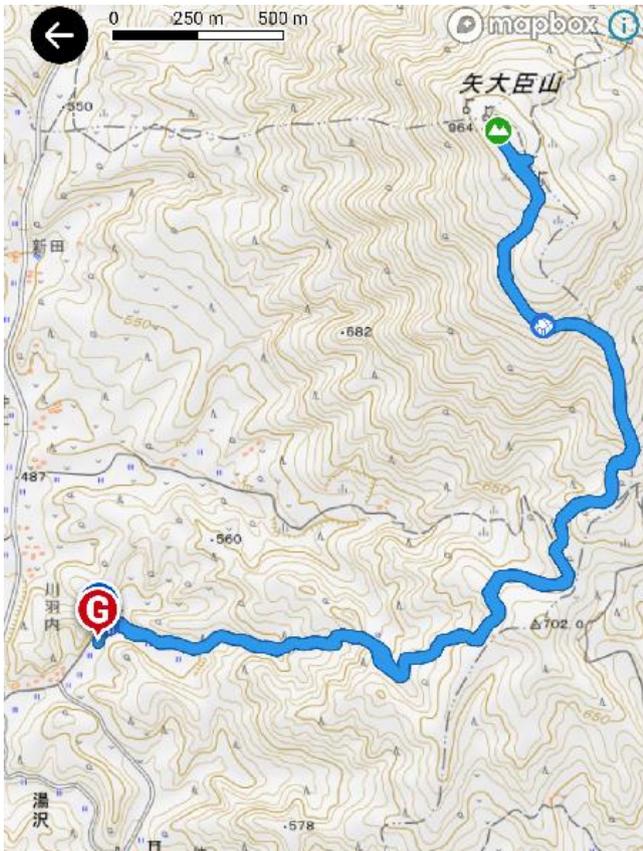
駐車場を出て、休耕地を奥へ進む。伐採地を過ぎ、樹林奥の切通を抜けると、旧登山道に合流。作業道のような道を登っていくと、ブナ巨木のある場所に出る。若干の花木が植えられ、ベンチもあるので休憩には良い場所。蓬田岳も見える。

尾根の少し下、山腹を進むと、作業道らしき道が終わり、斜度を増して登山道になる。土留めした階段の少し先に巨石「長持石」があり、少し休憩。さらに進み、水場入口を過ぎて最後の急登が終わると、ほぼ山頂。振り返ると、いわき市方向の展望が広がる。広場に出ると、見事に咲いているツツジもあるが、まだ蕾が多かった。電波中継基地局と展望台の前を通り、山頂へ進む。標柱の前で集合写真を撮って、三角点標石を写真も収める。少し戻って展望台下で昼食。5月も半ばだが、風は冷たい。食後に展望台からほぼ360度の阿武隈の山々を眺め、そのまま下山。下山後は、ツツジが満開の旅館「小町の湯」に立ち寄って入浴してから帰宅。

(文責：太)

[コースタイム]

10:55 湯沢登山口駐車場→11:35 ブナ巨木→12:20 長持岩→12:40 矢大臣山山頂
→13:55 長持岩→14:20 ブナ巨木→14:50 湯沢登山口駐車場



五葉山（1340m）

2022年5月21・22日(土・日) 太、菊地、外2

五葉山は、岩手県釜石市・陸前高田市にある日本三百名山・東北百名山。「花の百名山」ではミネザクラが紹介されている。赤坂峠からピストンなら日帰りコースだが、山頂近くの避難小屋がきれいで快適と聞き、あえて小屋泊を楽しんだ。

市内を朝6時過ぎ出発、三陸道・大船渡ICを下りて、12時過ぎに赤坂峠に到着。駐車場で秋田県からの2名と合流。天気は曇天。ツツジの咲く登山口の鳥居をくぐり登って行く。二合目を過ぎ、見事に咲くオオサクラソウ群生地立ち寄る。「賽の河原」や「畳石」で休みながら、ゆっくり登って避難小屋「石楠花荘」に到着。二階建てで一階は物置、二階は板敷で中央にストーブスペース、ロフトもある。トイレは別棟だが簡易水洗の洋式、水場は小屋前15m。ザックを置いて山頂へ。

山頂は広く、海側に日枝神社、少し離れて三角点標石と山名板、低木の奥に「日の出岩」（1351m）。岩の前のミネザクラも少し咲いており、花に恵まれた山行だった。小屋に戻る前に、神社で集合写真を撮ってもらったNHK岩手の皆さんに取材を受けた。避難小屋に戻ると、山菜天麩羅を揚げ、牛タンを焼き、(他に登山者1名いたので)夜8時まで宴会。酒類は4人合計で3リットルほど。

翌日は、小雨日和だが、宮城県気仙沼の徳千丈山に行くため早めに下山。「賽の河原」と「畳石」との間、平らになった場所で登山道を横断しようとするクマに遭遇。互いに驚いて目が合ったが、クマが藪に引き返してくれた。早朝で曇天、コルなど平ら場所で脇が藪と、遭遇確率の高いときは注意しよう。

[コースタイム]

《初日》

12:30 赤坂峠登山口→12:45 オオサクラソウ群生地→13:10 賽の河原→13:40 畳石
→14:45 石楠花荘(避難小屋)→15:30 日枝神社→15:40 山頂→15:50 日の出岩
→16:05 山頂→16:20 石楠花荘

《翌日》

6:00 石楠花荘→6:55 畳石→7:10 賽の河原→7:40 赤坂峠登山口

(文責：太)



徳千丈山（711m）

2022年5月22日(日) 太、菊地、外2

東北百名山の一、宮城県気仙沼市の徳千丈山は、ツツジの名所である。全山満開であると聞き、五葉山からの帰路、一緒に登ったメンバーで立ち寄った。

朝9時半前に北側の気仙沼登山口の駐車場に到着。あいにくの小雨模様だが、既に観光バスが数台駐車、小型車も続々と到着している。レインウェアを着て散策を開始。長く急な「つつじ坂」を登っていくと、左手に密集した花をつけるツツジの古木が広がる。道の両側にまで花が見られるようになると、すぐに「第一展望台」。高床式四阿の展望デッキからは、目の前一面に広がるツツジの花、「つつじが原」が見渡せる。四阿の案内図によると、天気が良ければ、ツツジの向こうに太平洋が見えるとのこと。咲き誇るツツジのトンネル「つつじ街道」を抜け、「十二曲がり登山道」を登ると、山頂。ちょうど雨が上がったので、山頂から振り返った眺めは、樹々の緑の中、薄い赤のツツジがコントラストも美しい。反対側は、中腹から点々と咲くツツジ、遠くに三陸のリアス式地形、突き出た半島などが望める。山頂から少し尾根を下りた「お祭り広場」には仮設トイレも置かれており、ひと休み。広場から見上げると、山頂までの斜面は見事なまでのツツジ。

「お祭り広場」で折り返し、「第二展望台」を経て、再び「第一展望」に立ち寄り、駐車場に下りた。

[コースタイム]

9:40 駐車場・気仙沼側登山口→いこいの広場・つつじ坂→9:55 第一展望台→つつじが原
→10:00 つつじ街道→10:10 十二曲がり登山道→10:20 山頂→10:35 お祭り広場
→10:55 第二展望台→つつじが原→11:00 第一展望台→つつじ坂→気仙沼側登山口・駐車場

(文責：太)



地図の双眼鏡マークが展望台。第一展望台。つつじが原。海岸線展望。見上げた山頂。